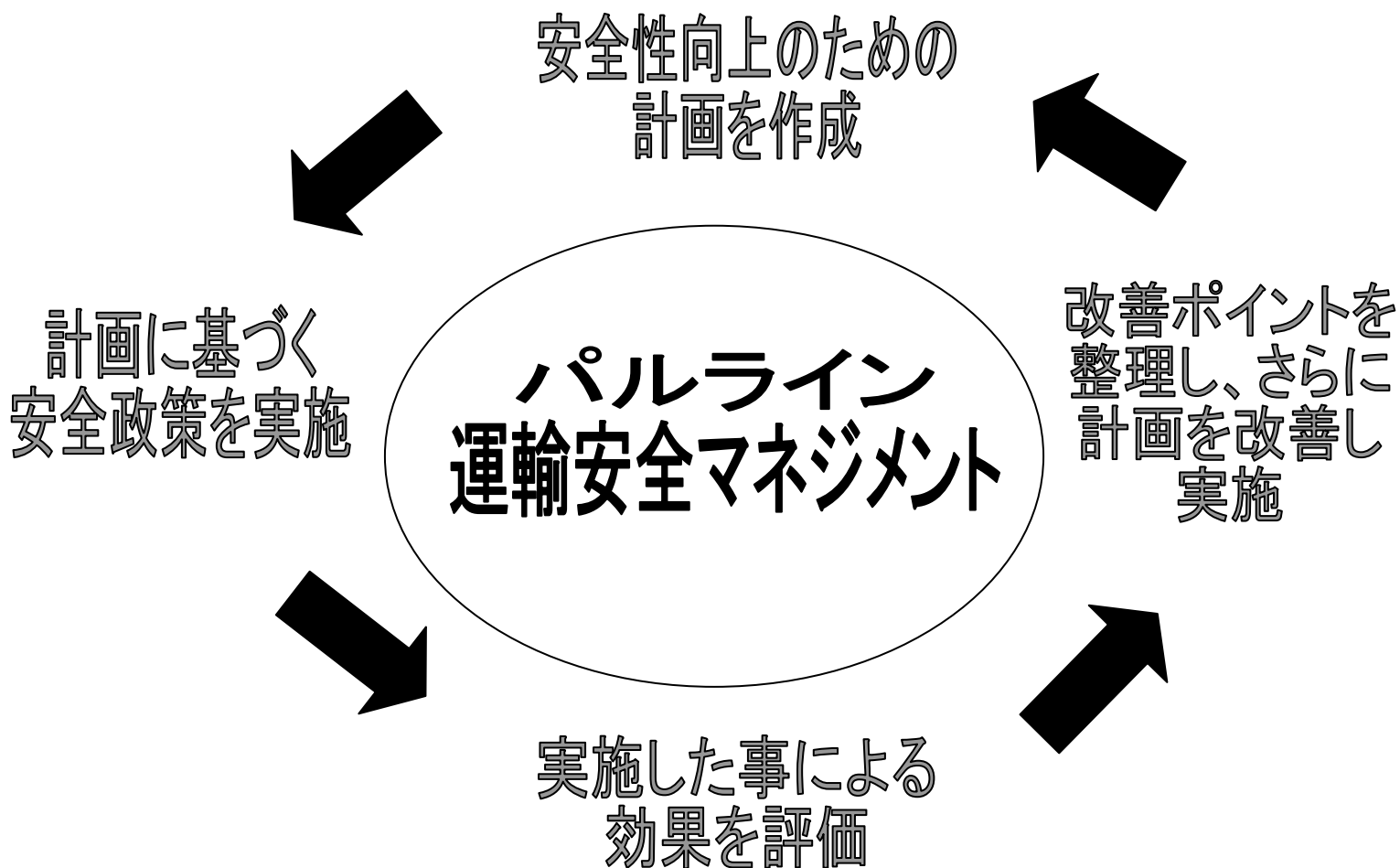


2017年運輸マネジメント(計画、実施、評価、改善の流れ)



① 新人の事故削減を目指します。(新人の事故件数9件 ⇒6件以内)

- 定期同乗を16年度同様実施します。また、新人専用コースの作成を推進します。
- 営業所に出向き、新人を対象とした出張座学研修を行います。(トラック特性を重点的に行います。)

② 安全運転支援機器を使用しエコドライブの推進、安全運転の推進を行ないます。

- 生活物流の全ドライバーを対象に、1週間×2回(上期・下期)安全運転支援機器による診断を行ない、運転の癖を修正するとともに、エコドライブ運転も推進します。
- 基幹物流の全ドライバーを対象に、毎月1回SR診断を実施します。

③ 現場パトロールを強化します。

- 配達現場を巡回しルールの遵守状況を確認します。
- 指摘するだけでなく、ルールを守っている社員に対し“褒める”仕組みを構築します。

④ 事業所点検を実施します。

- 3ヶ月に1回の頻度で事業所点検を実施し、法令順守運営を維持継続します。

⑤ 指導者の育成に力を入れます。

- 運行管理補助者に対し講習会を開催し、関係法令の理解度を深めます。
- 主任、副主任同乗を行い指導者の目線合わせを行います。
- 生活物流、基幹物流の合同会議を年 2 回開催し、指導員同士のコミュニケーション、意見交換を行い意思一致が出来る場を作ります。

⑥ 社員が率先して参加する安全風土を強化します。

- 毎月第一週目を全社一斉「事故・労災 0 の週」と定め、営業所の社員から意見を募り注意する重点項目を定め、全社員が意識した運転をする仕組みを構築します。
- 社員を主体とした安全運転セーフティラリーの開催や、社員が主役となり日ごろの安全運転技術を競えるドライバーズコンテストなど様々な取り組みを提案致します。
- 標識テストなど交通法規に関する情報を提示し、違反に対する意識向上を目指します。
- 定期的に営業所へ赴き、社員と意見交換を行い事故削減に努めます。

⑦ 過去事例を活かします。

- 過去の事例を風化しない仕組みを構築し同様の案件が発生しないよう指導します。
- 自転車の事故事例などKYT教育で自転車との接触事故 0 を目指します。

⑧ 施設賠償事故防止に向けた教育を強化します。

- 過去の施設賠償事故を研究し、再発防止策を構築します。
- 新人研修時、月次の乗務員教育の際に台車の扱い方を確認、事故事例を共有します。

⑨ 台車運用ルールを見直します。

- 施設賠償、荷崩れ防止を強化する為、現場で使い勝手の良いバンド及び取り付け方を検討します。

以 上